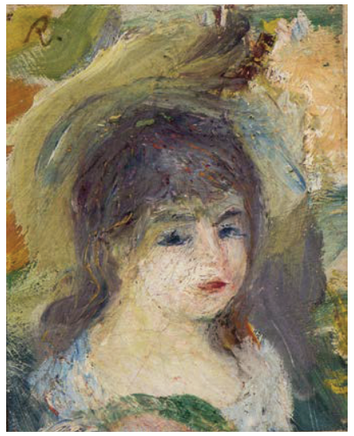
財団のあゆみ 134

美術研修

2023年10月10日（火）～11日（水）
講師：美術研究家　沼辺 信一

北の大地のアートをたずねて

本研修で念願であった北海道を初めて訪れました。
残暑の厳しかった東京を離れ、名画、彫刻など北の大地のアートを体感してきました。


2

1

4

3

6

5

小樽芸術村

小樽芸術村は、家具とインテリアの販売で知られる「ニトリ」が２０１６年に開設した複合的な展示施設で、現在は公益財団法人 似鳥文化財団が運営しています。小樽が栄華を誇っていた二十世紀初頭に建造された旧荒田商会、旧高橋倉庫、旧三井銀行小樽支店、旧北海道拓殖銀行小樽支店、旧浪華倉庫の５棟を拠点に、それぞれの建物にその時代を華やかに彩ってきた日本や世界の優れた美術品・工芸品を展示公開しています。

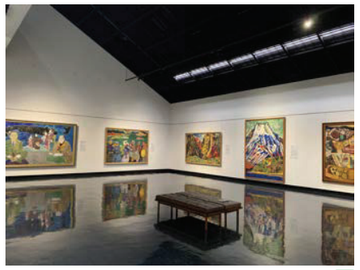
似鳥美術館（旧北海道拓殖銀行小樽支店）では、ルイス・C・ティファニーのステンドグラス、近代日本の絵画・彫刻のほか、ルノワールの油絵も展示されています。いずれも見ごたえある名作です。

西洋美術館（旧浪華倉庫）には、アール・ヌーヴォー、アール・デコ様式の家具、陶板画、ガラス工芸品、マイセンの磁器などが展示されています。

ステンドグラス美術館（旧高橋倉庫・旧荒田商会）は館内がステンドグラスで埋め尽くされ、思わず荘厳な気持ちに。

旧三井銀行小樽支店は、重要文化財に指定されていて、美しい石積の建築が印象的でした。建物そのものが芸術品と言えるのではないでしょうか。

小樽の街は、運河周辺にレトロな建物を利用したカフェや土産物店が多くあり、散策も楽しめました。


9

8

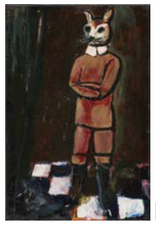
7

12

11

10

14


13

17

16

15

1藤田嗣治「カフェにて」1949～1963　2ピエール・オーギュスト・ルノワール「女性像」　3佐藤玄々「大慈大悲救世観世音菩薩」　4西洋美術館　5ステンドグラス美術館「最後の晩餐」　6旧三井銀行小樽支店　7小樽運河の夜景　8道立近代美術館　「揺さぶる絵」展①　9道立近代美術館　「揺さぶる絵」展②　10三岸好太郎「オーケストラ」1933年　11三岸好太郎「悪魔」1932年（「オーケストラ」の裏面に描かれている）　12三岸好太郎「のんびり貝」1934年　13三岸好太郎「猫」1931年　14「ガラスのピラミッド“HIDAMARI”」　15「ミュージックシェル」　16「モエレ山」　17「プレイマウンテン」
上記1～5の所蔵元及び6　小樽芸術村（公益財団法人似鳥文化財団）　8～9写真提供　北海道立近代美術館　10～13の所蔵元　三岸好太郎美術館　14～17モエレ沼公園

©画像の転載ならびにコピー禁止

久しぶりの宿泊美術研修で4カ所を巡り、少々欲張りすぎた感がありました。しかし、素晴らしいアートや風景を見て、また訪れたいと思わずにいられませんでした。

北海道立近代美術館

札幌市のほぼ中央に位置する北海道立近代美術館は、北海道を代表する美術館です。展覧会「揺さぶる絵　変貌する日本画のイメージ」が開催中でした。同館と豊橋市美術博物館のコレクションを中心に、岩橋英遠や片岡球子らの戦後の作品が並びます。見上げるような大きな絵に、まさに心が揺さぶられました。「足立美術館所蔵　近代の日本画と北大路魯山人展―和の美、再発見」も同時開催でした。

北海道立三岸好太郎美術館

三岸好太郎は、大正から昭和初期の日本近代洋画史を彗星のごとく駆け抜けた札幌出身の画家です。この美術館は１９６７年に開館した北海道立美術館を前身とし、１９７７年に現名称となり１９８３年に道立近代美術館の隣接地で再オープンしたものです。

三岸好太郎は、短い生涯の中で多様な画風を模索し、次々と変貌させていきました。素朴な情感の漂う人物画、道化や前衛的な手法を用いた作品も制作しました。代表作でもある「オーケストラ」の裏面に「悪魔」が描かれていて、両面展示されていました。

モエレ沼公園

札幌郊外にあるモエレ沼公園は、基本設計を世界的に著名な彫刻家イサム・ノグチが最晩年に手がけ、「全体をひとつの彫刻作品とする」のコンセプトのもとに造られました。広大な敷地には幾何学形態を多用した山や噴水、遊具などの施設が整然と配置されており、自然とアートが融合した美しい景観を放っています。晴天にも恵まれ、参加者は、童心に戻って、山に登ったり滑り台を滑ったり、ノグチの世界を楽しんでいました。